

## 長岡税務署長賞

### 税と生きる私たち

新潟県立長岡大手高等学校

三年 石山 希

私は、これまでにやってきた税の学習や、ニュース等で得た税の知識をもとに、税は私たちにとって重要な存在であると痛感する。

例えば、高齢化と税について考えてみる。もし、自分が大人になって、自分の親も高齢者となり医療サービスの機会が増えたら、莫大なお金がかかる。税という制度がなければ全額を負担することとなる。高齢化が進む日本で暮らす若者にとってより負担が大きくなると考えられる。そのため、日本の未来を考えても、国民一人一人が、きちんと税を納めることで、お互いにカバーし合うことができ、知らぬ間に助け合っただけで暮らしていくことができると思う。私たちにあって、税が必要不可欠であることは間違いないと思う。

私は、高校二年生の時に税務署の方から依頼を受けて、書道部の部員全員であるイベントに参加した。そのイベントは、税について多くの人に知ってもらおうといった主旨のものであった。私たちは依頼をいただいた時、税に関する書道パフォーマンスとはどのような形にすれば良いのだろうと、四苦八苦したことを覚えている。色々と案を出し合い、最終的に

は、「税を通して皆で支え合おう、税は未来へと繋ぐバトン」などというような意味の言葉を用いて表現することにした。このパフォーマンスや事前準備等を通して、税に対する意識が変わった。日々当たり前のように、仲間と共に学校で勉強できるというのも、税を納めるといふ制度があつてのことであるし、風邪をひいて病院に行くときも、本来の料金よりも安い料金で受診することができる。それらのことが、可能な社会に生きる私たちがどれだけ幸せ者であるか気づかされた。

今まで私が学んできたことをふまえ、これからの社会と税について考えてみる。税制度のない社会を想像してみると、高速道路以外の道路を通るときも、通行料が取られてしまったり、社会保障や教育に関するものも、人々に平等に与えられず、快適な生活を送れないことは容易に考えられる。そのような事態を防ぐため、私たち高校生（若者）が、社会人になったとき、私たちの未来、これからの子どもたちのために税に関心を持ち、納めていくことが大切である。できる限り、平等な社会を築き上げていきたい。